

## 第5学年 国語科学習指導案

指導者 林 悦 代

## 1 単元 作品を自分なりにとらえ、感動を伝えよう

教材文「大造じいさんとガン」(作 椋 鳩十)

## 2 指導の立場

本学級の児童(男子8名、女子16名)は、4月の「人物の関わり合いを読み、感想を書こう『のどがかわいた』」では、登場人物の行動や会話を中心にして人物像と人物同士の関わりを読み取り、登場人物2人の続き話を作る学習を行った。直接的な表現から登場人物の内面にある深い心情を考えることができるようになってきた。また、7月「伝記を読んで、自分の生き方について考えよう『百年後のふるさとを守る』」では、行動描写から、登場人物の偉業について考える学習を行った。自分の経験や考え方と照らし合わせて、描かれている人物や出来事、筆者のものの見方や考え方について感想をもつことができた。また、こうした読み方を同じ種類である「伝記」を読むことに生かし、お薦めの本をみんなに紹介することができた。教材文で学んだ読み取りの方法を自分が選んだ本を読むことに生かすことができるようになっている。

本単元は、情景などの暗示的な表現を手がかりにして人物像と登場人物同士の関わりを読み取り、作品のすばらしさを感じ取ることをねらいとする。そのために、物語を読んで感動したことが伝わるように、新聞にまとめて紹介する言語活動を設定する。

新聞では、「大造じいさんとガン」を読んで感動したことを主記事、並行読書を通して読んで感動した内容を副記事とし、読者に動物を扱った物語のすばらしさを推薦する記事を書くことを目的とする。その際、どの記事を中心にするか、記事の軽重を考えて、記載記事の内容を検討するようになる。そのため、複数の場面を比べたり関連づけたりして読むことが必要になってくる。また、新聞には、題名、見出し、リード文、本文がある。題名や見出しを書くことを通して自分が読み取って感じたことを端的に表現するために言葉を吟味する力、リード文を書くことを通して物語の構造や展開を押さえて正しく要約する力、本文を書くことを通して自分の読み取りを客観的に見直し、さらに読み深める力を育てることが期待できる。

教材文「大造じいさんとガン」は、ガンの頭領「残雪」と狩人「大造じいさん」との間に繰り広げられる生存のための厳しい闘争を通じて、美しいもの、感動すべきものに素直に心を動かしている大造じいさんの姿が描かれている。物語は前書きと4つの場面で構成されており、高齢の大造じいさんが残雪との戦いを語るという展開になっており、前書きから大造じいさんが残雪の姿に心を打たれたことが分かる。4つの場面には大造じいさんの心情を暗示的に表現する情景の文や慣用的な表現があり、こうした言葉に着目して読み深め、表現のすばらしさを感じることができる。また、児童それぞれが受け止める感動を生み出すすぐれた叙述部分は異なることも考えられ、感動の根拠を伝え合うことで、様々な感じ方に触れると共に、自分では気付かなかった表現のすばらしさに

気付くことができる。さらに、動物を扱う物語を並行して読むことで、動物の生きる姿への感動を深めることが期待できる。

そこで、指導にあたっては、次の点に留意したい。

- 前書きの様子を丁寧に読み、大造じいさんが「残雪」との関わりに深い感銘を受けたことを理解できるようにする。そして、「なぜ大造じいさんは、この話を語るのか。何に感動したのか。」という視点で読み深め、新聞の内容を決定できるようにする。
- 絵をかいたり言葉から連想される様子を考えたりして、情景を表す表現からイメージできる世界を具体的にとらえ、大造じいさんの心情を読み味わうと共に、こうした表現のすばらしさを感じられるようにする。
- 場面ごとに新聞の見出しにしたい表現を10字以内でまとめて交流し、多様な表現から色々な感じ方に触れ、登場人物の内面にある深い心情をとらえることができるようにしたい。

また、本時の指導にあたっては、次の点に留意したい。

#### 研究の視点

すぐれた表現に気付き、深い心情を考えることができる学習方法の工夫

残雪に対する大造じいさんの思いや見方やその変化を読み取ることができる文末表現や自然描写、行動描写、色彩語といったすぐれた表現がいくつもある。「大造じいさんを変えた残雪の行動」を各班で1つ選び、他の班がなぜその表現を選んだのかを想像する学習を取り入れる。一つの表現でもいくつも解釈が考えられて意見交換が活発に行われ、登場人物の内面にある深い心情をとらえることができると考える。

### 3 単元目標

- ・自分が感じたこと考えたことが伝わる見出しになるよう、すぐれた表現に着目して登場人物の心情を考えようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた表現について自分の考えをまとめることができる。(読むこと)
- ・登場人物の心情を表す語感や言葉の使い方に対する感覚について関心をもつことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

### 4 単元構想 (全10時間)

| 次 | 時 | 目標 (観点)                        | 主な活動                      | 配慮を要する児童への手立て            |
|---|---|--------------------------------|---------------------------|--------------------------|
| 一 | 1 | 物語の大体の構成をつかみ、学習の見通しをもつ。<br>(関) | 前書きを中心にして、大造じいさんの特徴を見つける。 | 大造じいさんの年齢を表す言葉を見つけさせる。   |
|   | 2 | 3つの作戦が分かる。<br>(読)              | 3つの作戦に題をつける。              | それぞれの作戦に使われているものを見つけさせる。 |

|   |   |                                    |                             |                              |
|---|---|------------------------------------|-----------------------------|------------------------------|
|   | 3 | 大造じいさんの心情の変化のきっかけに気づき、読みの視点をもつ。(言) | 情景描写の文を具体的にイメージする。          | 「美しくかがやく」の言葉から想像させる。         |
| 二 | 1 | 一場面を読み、残雪に感心する大造じいさんの思いを読み取る。(読)   | 残雪に対する思いが強く現れている表現を検討する。    | 引き延ばされた釣り針の糸の様子を具体的にイメージさせる。 |
|   | 2 | 二場面を読み、悔しくてたまらない大造じいさんの思いを読み取る。(読) | 大造じいさんの心情の変化が分かる表現を検討する。    | 残雪の動きを具体的にイメージさせる。           |
|   | 3 | 三場面を読み、残雪に対する見方の変化を読み取る。(読)        | 大造じいさんの思いを変えた残雪の行動について検討する。 | ハヤブサと残雪の位置関係を具体的にイメージさせる。    |
|   | 4 | 四場面を読み、残雪を見守る大造じいさんの心情を読み取る。(読)    | 情景描写から、大造じいさんの心情を検討する。      | 実際にはその場面にないものを見つけさせる。        |
| 三 | 1 | 感動が伝わる見出しを決める。(読)                  | 見出しを見直し、新聞の内容を考える。          | 一番感動した場面から考えさせる。             |
|   | 2 | 他の物語の紹介記事を書く。(関)                   | 感動を中心に見出しと記事を書く。            | 一番感動した言葉から考えさせる。             |
|   | 3 | 感動が伝わる新聞を作る。(読)                    | レイアウトを決めて清書をする。             | 中心となる記事を大きく書かせる。             |

## 5 本時案

### (1) 主眼

他の班が見つけた表現の根拠を推測し合う活動を通して、大造じいさんの残雪に対する見方の変化を読み取ることができる。

### (2) 準備 短冊黒板 短冊カード 評価シール

### (3) 学習の展開

| 学習活動・内容  | 教師の働きかけ  |
|--|--|
| 1 前時までの学習を確認し、本時の見通しをもつ。<br>・残雪に対する大造じいさんの思い<br>・残雪の行動への着目 | ・本時の内容の大体を確認し、残雪の行動に着目できるようにする。<br>・「東の空が～」の文を示し、大造じいさんの期待感を確認する。  |
| 大造じいさんは、残雪のどのような行動に心を打たれたのだろうか。                            |  |
| 2 大造じいさんが心を打たれた残雪の行動を考える。<br>・残雪の行動と大造じいさんの心情の関連           | ・各班で1つ選び、短冊黒板に書かせる。その際、他の班が選んだ表現は選ばないようにさせる。<br>・選んだわけをノートに書かせておく。 |

3 他の班が選んだわけを推測し合い、残雪に対する見方について話し合う。

- ・再びじゅうを下ろしたわけ
- ・心打たれた残雪の行動
- ・残雪に対する見方の変化

〔予想される児童の反応〕

- ・残雪は、自分の命をなげうっても、おとりのガンを助けたいと思ったのだな。
- ・残雪は、最期まで堂々と戦おうとしたのだな。
- ・大造じいさんは、こうした残雪の行動と自分の行動を比べたのだな。
- ・大造じいさんは、正々堂々と戦おうと思ったのだろうか。

4 新聞の見出しを書く。

- ・残雪に対する見方の変化のまとめ

〔予想される見出し〕

- ・正々堂々とした戦いへ
- ・残雪が変えた
- ・仲間のために最期まで

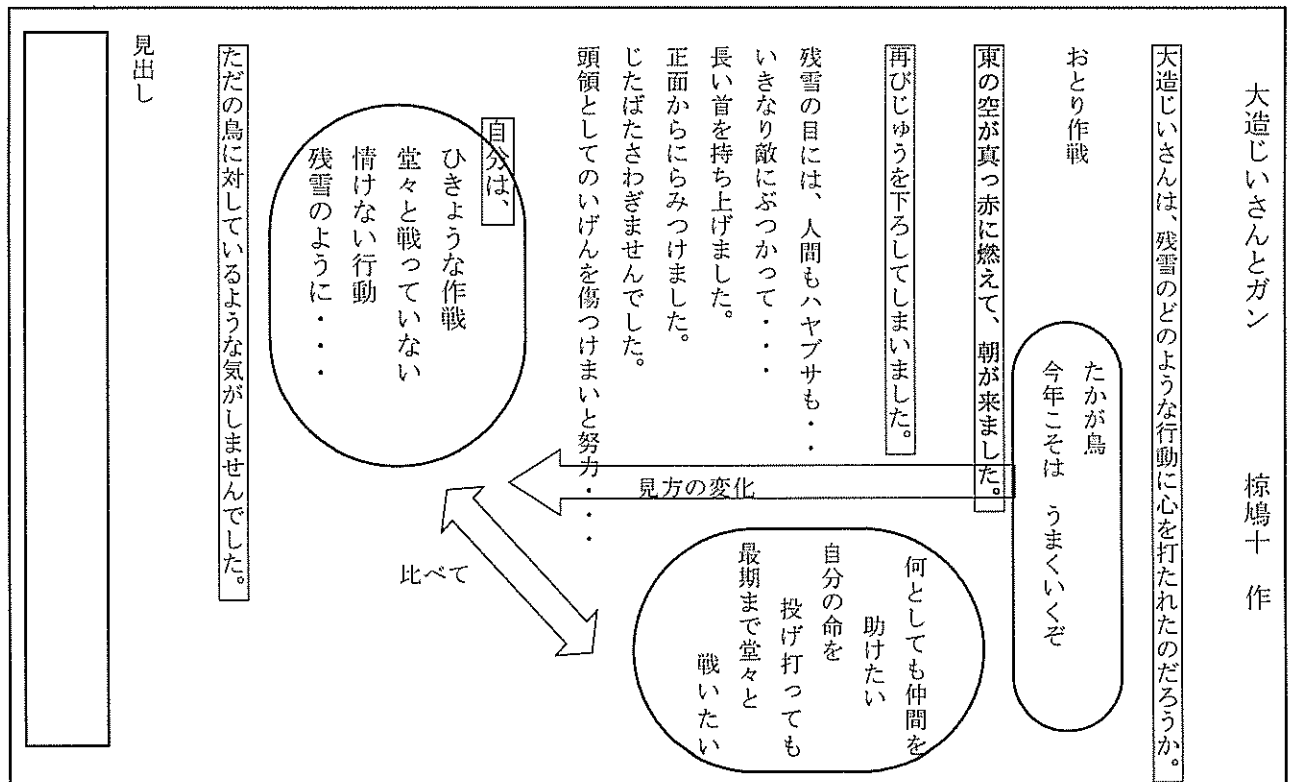
・早く済んだ児童には、他の班が選んだわけを推測してノートに書かせる。

- ・他の班が選んだ根拠を推測していくつか発表させ、色々な感じ方に触れさせる。
- ・「くれない」「白い」の色彩語に着目して、激しい戦いぶりを感じ取らせる。
- ・残雪の行動を絵で表して具体的にイメージし、残雪を見ている大造じいさんの心情を想像させる。
- ・残雪とハヤブサの行動の違いから、残雪のすばらしさを感じ取るようにする。

- ・心に残った言葉を中心にして、10字以内にまとめさせる。
- ・早く書いた児童から、掲示し、相互評価をさせる。その際、良いと思った見出し3つにシールを貼らせる。

(4) 評価 色彩語や残雪の行動描写から、大造じいさんの残雪に対する見方の変化を読み取ることができたか。(読むこと)【見出し】

(5) 板書計画



## 6 考察

### (1) 国語科での活用力向上

国語科で活用力を向上させるために必要なことは、「単元を貫く言語活動」を設定することである。単元を貫く言語活動は、児童にとっては単元の「ゴール地点」となる。そのゴール地点に向かって言葉に立ち向かい、言葉を通して読み味わい、表現し、言葉の力が育っていくということである。

本単元では、「感動を伝える新聞を作ろう」という言語活動を設定し、1場面ごとに新聞の見出しを考える学習を行った。新聞は「題名」「見出し」「リード文」「本文」で構成されている。そこで、見出しを書いて相互評価し、その見出しをもとに自分の感動が伝わるリード文を書くようにした。そして、教材文「大造じいさんとガン」の学習で学んだ読み取る力や見出しを書く力を並行読書している本の読み取りで活用し、新聞にまとめた。

こうした学習が充実できるように、本単元ではいくつかの制約を設定した。

#### ① 見出しの字数の設定

本単元では、1場面ごとのまとめとして、読み深めたことが伝わる見出しを書く学習を行った。その際、「10字以内」という制限を設定した。

「大造じいさん」という言葉を使うと、残りは4字となり、その他の言葉をかなり吟味する必要が出てくる。そのため、「大造じいさん」という言葉を使わずに必要な言葉は何か考え、言葉を吟味して見出しを書く児童が多く見られた。

#### ② 相互評価の充実：「良いと思った見出しを3つ選ぶ」

見出しを書いたあとは、それぞれの見出しを見て良いと思ったもの3つにシールを貼る相互評価を行った。「確かにそうだよね。」「この言葉、いいね。」など感想を出し合いながら、またどれにシールを貼ろうかと色々考えながら、友達の見出しを見て評価する姿が見られた。

また、たくさんシールが貼られた見出しから言葉の使い方などを学び、次の場面での見出しづくりに生かそうとする姿も見られた。

| 評価の高かった見出し |            |            |            |
|------------|------------|------------|------------|
| 〔1場面〕      | 〔2場面〕      | 〔3場面〕      | 〔4場面〕      |
| かしこい小さな頭   | あと一歩だったのに！ | 頭領のいげん     | こんどは堂々と戦おう |
| きけんを感じる知恵  | 本能に負けるじいさん | おとり作戦結果は？  | 残雪のおそるべし力  |
| かしこい残雪     | 残雪の頭のよさに完敗 | 頭領としてのプライド | 英雄らしくまた来いよ |
| 人間と鳥の知恵    | 大造じいさんの期待が | 責任をとる残雪    | 来年堂々と戦おうよ  |

#### ③ 育てる思考力の焦点化：「比較」

物語を読み深めるためには、どのような視点で読み深めるのかを焦点化することが必要である。本単元では、「比較すること」に焦点を当てた。

特に3場面で、「正々堂々と戦う残雪」と「ひきょうなやり方でガンをつかまえようとする大造じいさん」、「大造じいさんに立ち向かっていく残雪」と「逃げ去っていくハヤブサ」を比較して考えることで、残雪の行動や考え方やそうした姿から自分自

身の行動を見つめ直す大造じいさんについて読み深めることができた。

## (2) 国語科での基礎的技能向上の工夫

国語科の学習で学んだ「読む力」を活用して自分の力で様々な文章を読み味わうことができるようにすること、これが国語科教育のねらいである。こうした学びを実現するために、「読むことのスキル」や「言葉の拡充」などといった基礎的技能が向上できる指導を行った。

### ① 物語を読むスキルの育成：「第一次の充実」

登場人物の相互関係や心情を読み深め、作品のすばらしさを読み味わうためには、どの児童も物語の大体の内容を理解しておくことが大切である。そのために、第1次で、物語を読むスキルを指導しながら、物語の大体をとらえ、みんなで読み深めたい学習課題を焦点化するようにした。

本単元では、次の指導を行った。

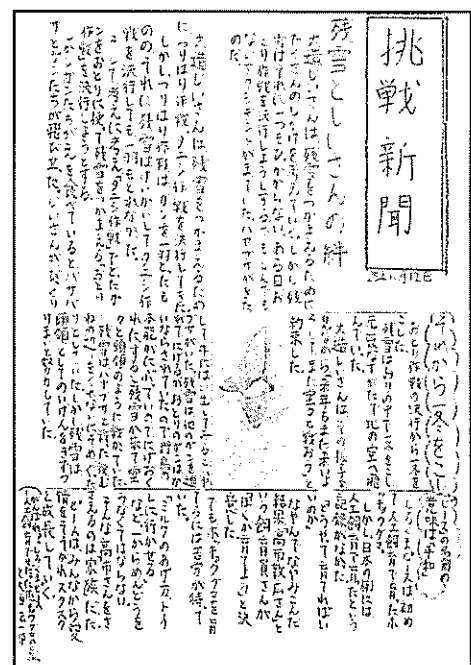
- ・ 場面ごとに登場人物は誰か、大造じいさんは何歳かを考えることで、「前書き」「4つの場面」という構成を理解する。特に前書きから「大造じいさんがたくさん話をした中で、語り手はこの話に特に心を打たれた」ことを理解し、第2次では、「語り手は、どのようなことに感動したのだろうか」という視点で、4つの場面を読み深めた。
- ・ 一文ずつ、主語と述語を確認する学習を繰り返し、登場人物が主語となっていない文(情景を表す文)に気付かせる。こうした文は、1・2・3場面では1つずつ、4場面では2つある。この文が、大造じいさんの心情を暗示的に表す文であることを教え、色彩語を中心にしてどのような心情を表しているのかを考え、読み深めることができるようにした。

### ② 国語辞典の活用

言葉の意味が納得できるように理解し、その言葉を活用できるようにするために、学習を進める中で「分からない」と思った時に一人ひとりの児童が自分の辞典で意味調べをするようにした。

本時では、「心を打たれる」「くれない」「最期」「頭領」の4つの言葉を調べた。また、その際、「くれない」と「赤」の違いや「最期」と「最後」の違いを確認し、登場人物の心情をより深く味わうことができるようにした。

読み深める学習の中で、タイミング良く、短時間に意味調べができるよう、「はじめ」の合図で意味を調べ、見つけると挙手する、指導者は調べるのにかかった時間を知らせるようにしている。意味調べの合格時間は「15秒」であり、25秒を過ぎるとみんなで意味を確認するという学習を進めており、1分あれば1つの言葉を確認することができている。



完成した新聞